

予 算 要 求 資 料

令和3年度9月補正予算 支出科目 款：農林水産業費 項：畜産業費 目：畜産研究費

事業名 飛驒牛改良事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

畜産研究所 電話番号：0577-68-2226

E-mail：c24509@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 1,484 千円 (現計予算額：52,569 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県債	一般 財源
現 計 予算額	52,569	0	0	0	52,569	0	0	0	0
補 正 要求額	1,484	0	0	0	1,484	0	0	0	0
決定額	1,484	0	0	0	1,484	0	0	0	0

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・「飛驒牛」ブランドの維持・発展と畜産農家の経営安定を図るため、和牛生産事業及び人工授精事業を行う。

【9月補正】各種飼料単価の高騰に伴う飼料費の増額

(2) 事業内容

和牛生産事業・・・優良種雄牛の造成、優良雌牛群の系統保存、優良子牛の供給、繁殖雌牛及び和牛子牛の飼養管理技術に係る研究と実践

【9月補正】 54,053 千円 (+1,484)

- ・人工授精事業・・・優良種雄牛の凍結精液の生産・譲渡

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	△296	県外出張用務の減
消耗品費	207	各種資材高騰による
印刷製本費	△100	精液証明書印刷数の減
修繕料	△400	車両、資機材修繕の減
飼料費	2,073	トウモロコシ価格高騰による増
合計	1,484	

決定額の考え方

事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
「飛驒牛」の銘柄化推進の旗頭となる黒毛和種種雄牛を造成すると共に、所内の繁殖雌牛群から生産した優良子牛の供給を行う。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
優良子牛生産頭数	(H)	90 (H29)	84 (H30)	78 (R1)	96 (R3)	81%
優良種雄牛凍結精液配布本数	(H)	16,962 (H29)	16,655 (H30)	16,737 (R1)	19,000 (R3)	88%

○指標を設定することができない場合の理由

—

(前年度の取組)

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
 - ・直接検定牛として10頭の選抜を見込む（うち2頭は畜産研究所生産牛）
 - ・令和2年9月現在で35頭の優良子牛を農家へ譲渡した。
 - ・子牛育成試験を実施し、発育の改善効果や適正な飼料設計についての試験を実施している。

(前年度の成果)

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
 - ・現在までのところ、育成試験を実施している子牛の発育は良好であり、消化速度の異なる蛋白質や牧草の組合せが体格の向上や日増体量の改善に寄与していることが示唆される。
 - ・なお、令和3年度は96頭の優良子牛の生産及び、凍結精液19,000本を供給する計画である。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い 	
(評価) ○	<ul style="list-style-type: none"> ・飛騨牛ブランドの維持発展のために、今後とも県有種雄牛の凍結精液を安定的に供給し、有効利用のための技術支援を行う必要がある。 ・安福系種雄牛の計画的な造成が望まれているが、一般農家では近交係数が上昇することによる子牛への影響が懸念されるため、当所で生産することへの期待が高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	<ul style="list-style-type: none"> ・県内で利用される和牛凍結精液の90.7%(H30年次)が県有種雄牛の凍結精液であり、全国的にも非常に高い割合になっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある 	
(評価) ○	<ul style="list-style-type: none"> ・繁殖雌牛及び子牛の飼養管理技術の向上により、生産率が向上 ・県有種雄牛については3つの系統を整備しており、基幹種雄牛12頭の位置付けを考慮しながら、農家のニーズに応えられる体制を整備

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 ・牛舎を始めとする各種の施設、農機具及び備品等が老朽化してきており、飼養管理に支障を来す場合も生じていることから、改修・更新に伴う費用が必要

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか。 ・引き続き、農家のニーズに応え得る県有種雄牛凍結精液の供給体制を維持すると共に、「飛騨牛」の特徴である「脂肪質の良さ」「淡い肉色」「小ザシ」及び「モモ抜けの良さ」の改良が期待出来る種雄牛の計画的な生産を目指す。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	—
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	—